Community Medicine
── 地域医療の架け橋 ──

つばさ

2013 年 1 月発行
第 34 号

社会保険神戸中央病院
〒651-1145
神戸市北区惣山町２丁目１－１
TEL　078-594-2211
FAX　078-594-2244
http://kobe-hosp.jp/

地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

新年のご挨拶

院長　西尾　晃

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平成 25 年が幕を開けました。この新しい一年が皆様方にとりまして、これまでのどの年よりも良い年となりますよう、祈念いたしますところです。

十二支では、今年は巳年。「巳」は植物に種子が出来はじめる時期と考えられていたようです。昨年はロンドン五輪での日本選手の活躍や山中教授の iPS 細胞でのノーベル賞の授賞という悦ばしい出来事もありました。しかし一方では、円高不況にデフレ、ユーロ経済危機の波及などの経済的な不振に加えて、近隣国との領土問題の先鋭化など、余り良い話題には恵まれない一年でもありました。原子力発電の問題も進展を見ないまま、先送りとなりました。そして、年の瀬の衆議院の総選挙であわただしくその幕を閉じました。今年こそ新しい種子を宿し、未来に大きく枝を広げる礎となる年となって欲しいものです。

昭和から平成に時代が移り、早いもので四半世紀が過ぎました。社会保険神戸中央病院が、現在の惣山町に新築移転しましたのが、ちょうど昭和の終わりのころでした。そのわたしども社会保険神戸中央病院は来年、平成 26 年 4 月 1 日をもって独立行政法人　地域医療機能推進機構の病院の１つとして新たな一歩を踏み出します。ながらく馴染んでいただいた「社保」、「社保神戸中央病院」という名称も別の新しい名前に変わることになるようです。名前の変更はともかくとしまして、病院の建物や勤務しております職員は変わりません。また職員の気持ちは、公的病院としてこれまでより一そう地域に密着した、地域の皆様のための病院としての役割を果たして行く覚悟であります。今後とも皆様方の熱いご声援と、ご指導・ご鞭撻をたまわりますよう、お願いいたしますところです。

今いちど、本年が皆様方にとり素晴らしい一年でありますようお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

年男ご紹介

有井　一朗：精神科

ここ１年ほど東灘の自宅から週１回ペースで自転車通勤をしている。標高差が 400m程あるが、慣れると意外とどうにかなるものである。でも腰痛が出たりで、やはり寄る年波は有り、いつまで続けられるかと心配も出て来ている。

木村　幸平：麻酔科

特に、大正６年、昭和 52 年生まれの人は丁巳（ひのとみ）といわれ、縁の下の力持ちになることが多く、体が大きい割に小心だそうです。どんなヘビーな時でも頑張ります。

新任医師紹介

齋木（さいき）　大器（ひろき）：整形外科

１月から転勤して来ました。神戸は初めての土地なので新鮮な気持ちで頑張りたいと思います。

退任医師のお知らせ

藤田　伸弥：整形外科　　奥田　憲太郎：内科

近隣医療機関のご紹介

寺田クリニック

寺田 照久 先生

〒651-1131
神戸市北区北五葉１丁目 5-1-207
ハピネスプラザ２Ｆ

電話　078-593-5671

診療科目：心療内科・精神科

診療時間：午前９時～ 12 時
午後４時～７時

休 診 日：木・日・祝の全日
土・午後

平成６年９月初旬に関西国際空港が開港した翌日に、西鈴蘭台で開業し、18 年余りになります。開業後半年も経たない翌平成７年１月に大震災に遭いましたが、医院の被害は軽微で済みました。しあわせの村の仮設住宅へ PTSD の患者さんの往診や相談に行ったことを思い出します。

社会保険神戸中央病院には認知症の患者さんの画像診断で時々お世話になっています。

同病院精神科では土曜日の外来が無い為、たまに当院に紹介されます。又、当院の患者さんが夜間や休日に薬の過量服薬をし、同病院精神科や救急外来にお世話になることがしばしばあり、大変感謝しております。

北区保健部の精神保健相談に月１～２回出務し、精神症状はあるが、なかなか治療のレールに乗らない方の家庭訪問などもしています。

又、NPO 法人ゆうわ福祉会の評議員も務めており、地域の精神科医療・精神保健の向上と社会福祉に貢献したいと考えております。

11 月の『看護の催し』報告

インフルエンザを予防しましょう

平成 24 年 11 月 20 日（火）
～　11 月 30 日（金）
午前 10 時から 11 時 30 分

インフルエンザは、インフルエンザウイルスが原因で起こる病気で、突然の発熱や全身の倦怠感などの症状が特徴です。伝染性が非常に強く、症状が激しく重症化しやすいなどから、普通のかぜとは区別すべき病気です。特に高齢者や乳幼児は重症化しやすいため注意が必要です。通常日本では毎年 11 月下旬から 12 月上旬にインフルエンザのシーズンが始まり、１～３月にピークを迎えます。

当院でも同期間はインフルエンザ症状を訴える患者様が来院され、インフルエンザの検査、診断、治療が行われております。

11 月の看護の催しは、“インフルエンザは予防が大切”というコンセプトから、外出時のマスクの正しい着用方法や帰宅時の手洗い方法とうがい、十分な睡眠と栄養、予防接種などもっとも基本的な予防法をご紹介いたしました。

ご参加の男性から「手洗い方法がわかりやすく、子供や孫に教えてあげたい。手洗いのポスターは洗面所に貼ります。」と、予防方法をご理解いただけたご意見をくださいました。

今後も、外来看護師は地域の皆様のご健康に少しでも役立つ情報を発信してまいります。皆さまのご参加をお待ちしております。

外来看護科長　中村裕子

病院のはたらきもの　シリーズVI　医療秘書室

平成 24 年 5 月 22 日付で発足しました、医療秘書室を紹介します。

大友副院長を運営委員長として、室長と医師事務作業補助者(医師秘書)17 名とクラーク 11 名で構成されています。

外来の診察時に、医師の隣で、患者様の診察予約や検査予約等の代行入力、診察後の患者様への検査の説明や投薬の確認、次回予約の案内をします。

また、当日受診が必要な紹介患者様や緊急を要する患者様がおられれば、医師、看護師と連携して迅速な対応をしています。

他には、診療情報提供書や診断書等の記載や、学会・研修会の資料・統計等の準備も行います。

医療秘書室としては、医師の事務的な作業の補助を行い、医師が診察に専念でき地域の患者様がスムーズに外来受診ができる様にしたいと思います。医師・看護師・医師秘書が連携する事でチーム力を発揮し、迅速な対応を心がけ、患者サービスに繋げたいと思います。よろしくお願い致します。

医療秘書室　街(つじ)　佳代子

脳卒中センターからのお知らせ

「脳卒中データファイル」の発行を始めました

脳卒中を新たに発症され当院で入院加療いただきました患者様のうち、とくに再発予防・後遺症のケアにご留意いただく必要のある患者様に対して、ご本人・ご家族に確認の上、「脳卒中データファイル」をお渡ししております。「データファイル」の内容としては、医師、看護師、栄養士、リハビリ技師、薬剤師が各々の立場から患者様の病状についてのサマリーとともに再発予防の留意点などが記載されています。退院後のケアやかかりつけ医での確認にご利用いただければと思います。

整形外科外来診療体制変更について

平成 25 年 1 月から、右記のように外来診療体制を変更させていただきます。平成 23 年 7 月から、減員にともなう業務内容の調整が必要となったため火曜日と木曜日の外来は完全予約制のみとさせていただいておりましたが、強いご要望を頂き、予約外診察枠を設けることと致しました。ご利用ください。

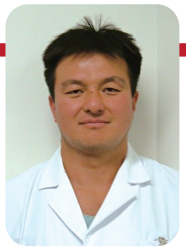
整形外科部長　柴谷匡彦

	月	火	水	木	金
1診（完全予約制）	齋木	加藤	──	柴谷	遠山
2診（予約外）	柴谷	遠山	交代制	齋木	加藤

メディカルライン

《医療機関向け》

アンギオ装置が更新されました



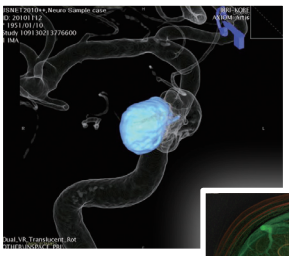
放射線科副部長　岡本将裕

当院のアンギオ装置が更新され、平成 24 年 12 月 10 日より稼働しております。新しいシステムは SIEMENS 社の最新機種である「Artis zee BA」で、フラットパネルディテクター・バイプレーンシステム・コーンビーム CT 機能・被曝低減プログラム等の最新の機能を備えています。

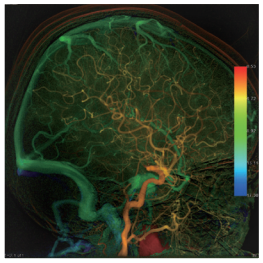
本システムの大きな特徴はフラットパネルディテクターにより全身領域のインターベンション手技において高画質で大視野の作業領域を確保することができること、またコーンビーム CT 機能により、体の断層像である CT ライクイメージを治療中に短時間で得られるようになったことです。それにより従来に比し得られる情報量が大幅に増加し、より緻密で正確な治療を迅速に行うことが可能になりました。

また患者様の負担軽減という点において、本システムは総合被曝低減プログラム「C.A.R.E.」を備え、高画質を確保しつつ最大 90%以上の被曝低減を実現しています。その他に、バイプレーンシステムを用い１回の造影で２方向の撮影ができるようになり、造影剤の使用量を減らすことが可能で、腎機能に不安のある患者様の治療においてリスクを低減させることができます。

当院では頭頚部領域、心血管領域、腹部領域、透析シャント等、全身の血管内治療を行っていますが、新しいアンギオ装置の導入で、より正確かつ迅速でやさしい血管内治療を地域の皆様に提供できるものと考えます。



◀脳動脈瘤に対する血管内治療後の 3D 透視画像



脳血管の血流時相の▶カラーマップ画像

第21回　『北神ストロークカンファレンス』のご案内

日　時：平成 25 年３月６日（水）　19:00 ～ 20:45
場　所：社会保険神戸中央病院　２階会議室

一般講演：①「改訂された t-PA 静注療法指針と急性期血行再建術」
社会保険神戸中央病院　脳神経外科医長　松田　和也
②「脳卒中診療のなかでの症候性てんかん」
社会保険神戸中央病院　神経内科医長　小別所　博

特別講演：「この１０年の脳卒中治療の変遷と社会保険神戸中央病院での歩み」
社会保険神戸中央病院　脳神経外科部長　松本　圭吾